

教育内容	専門基礎分野 人体の構造と機能	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	解剖生理学 I	単位 1単位	人体の構成成分である化学物質の性状と代謝を理解する		
担当講師	松山 裕文 管理薬剤師経験:10年以上	時間数 30時間			
教育目標	2 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う				
	3 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う				
	5 社会の変化の方向性を理解し、看護専門職として自己啓発に励み、生涯にわたり看護を探究し続ける姿勢を持つための基礎的能力を養う				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	生体を構成する物質とその代謝	生化学を学ぶための基礎知識 生化学とは 生体の化学の基礎知識 生命とは 細胞の構造と機能	講義	基礎分野 人間工学
	2		代謝の基礎と酵素・補酵素 代謝と生体のエネルギー 酵素の基礎知識 補因子	講義 確認テスト	専門基礎分野 解剖生理学II 解剖生理学III 解剖生理学IV 看護形態機能学
	3		ビタミン	講義	病態と治療I
	4		ポルフィリン代謝	確認テスト	病態と治療II
	5		糖質の構造と機能 糖質とは 単糖の構造と機能 二糖の構造と機能 多糖の構造と機能		病態と治療III 病態と治療IV 病態と治療V
	6		脂質の構造と機能 脂質とは 脂質の種類 リポタンパク質	講義 確認テスト	専門分野I 看護学概論
	7		タンパク質の構造と機能 タンパク質とは アミノ酸 タンパク質の構造	講義 確認テスト	専門分野II 成人援助論III 成人援助論IV 成人援助論V
	8		代謝	講義	統合分野
	9		糖質代謝 脂質代謝 タンパク質代謝	確認テスト	
	10	遺伝情報とその発現	遺伝子と核酸 遺伝子の複製・修復・組換え 転写 翻訳と翻訳後修飾	講義 確認テスト	
	11				
	12	細胞のシグナル伝達とがん	シグナル伝達	講義	
	13		シグナル伝達の概要 細胞内シグナル伝達の機序 内分泌の生化学的基盤 がん	確認テスト	
	14	総まとめ		講義	
15	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[2] 生化学 医学書院				

教育内容	専門基礎分野 人体の構造と機能	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	解剖生理学Ⅱ	単位 1単位	人体で営まれている生命現象のうち、生命を維持する機能(からだの支持と運動・呼吸・内臓機能の調整)について理解する		
担当講師	池田 峻弥 医学研究科	時間数 30時間			
教育目標	2	人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う			
	3	人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う			
	5	社会の変化の方向性を理解し、看護専門職として自己啓発に励み、生涯にわたり看護を探究し続ける姿勢を持つための基礎的能力を養う			
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	身体の支持と運動	骨格とはどのようなものか 骨の連結 骨格筋	講義	基礎分野 人間工学
	2		体幹の骨格と筋 上肢の骨格と筋 下肢の骨格と筋	講義	専門基礎分野 解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅲ 解剖生理学Ⅳ
	3		頭頸部の骨格と筋 筋の収縮	講義	看護形態機能学 病態と治療Ⅰ
	4	呼吸	呼吸器系の構造	講義	病態と治療Ⅱ
	5		呼吸 外呼吸と内呼吸 呼吸気量 呼吸器系の病態生理	講義	病態と治療Ⅲ 病態と治療Ⅳ 病態と治療Ⅴ
	6		ガス交換とガスの運搬 肺の循環と血流 呼吸運動の調節	講義	専門分野Ⅰ 看護学概論
	7	内臓機能の調節	自律神経による調節 自律神経の機能 自律神経の構造 自律神経の神経伝達物質と受容体	講義	専門分野Ⅱ 成人援助論Ⅲ 成人援助論Ⅳ 成人援助論Ⅴ 老年援助論Ⅰ
	8		内分泌系による調節 内分泌とホルモン ホルモンの化学構造と作用機序	講義	小児援助論Ⅰ
	9		全身の内分泌腺と内分泌細胞 視床下部一下垂体	講義	統合分野
	10		甲状腺と副甲状腺	講義	
	11		膵臓 副腎	講義	
	12		性腺 その他の内分泌	講義	
	13		ホルモン分泌の調節 ホルモンによる調節の実際	講義	
	14		総復習	講義	
15	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院				

教育内容	専門基礎分野 人体の構造と機能	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	解剖生理学Ⅲ	単位 1単位	人体で営まれている生命現象のうち、生命を維持する機能(血液の循環とその調整・体液の調整と尿の生成)について理解する		
担当講師	海老原 慎也 医学研究科	時間数 30時間			
教育目標	2 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う				
	3 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う				
	5 社会の変化の方向性を理解し、看護専門職として自己啓発に励み、生涯にわたり看護を探究し続ける姿勢を持つための基礎的能力を養う				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	血液	血液の組成と機能	講義	基礎分野
	2		赤血球	講義	人間工学
	3	循環	白血球	講義	専門基礎分野 解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ 解剖生理学Ⅳ 看護形態機能学
	4		血小板		
	5		血漿タンパク質と赤血球沈降速度		
	6	循環	血液の凝固と繊維素溶解	講義	病態と治療Ⅰ 病態と治療Ⅱ 病態と治療Ⅲ 病態と治療Ⅳ 病態と治療Ⅴ
	7		血液型		
	8	循環	循環器系の構成	講義	専門分野Ⅰ 看護学概論
	9		心臓の構造		
	10		心臓の拍出機能:心臓の興奮とその伝播		
	11	循環	心電図	講義	専門分野Ⅱ 成人援助論Ⅲ 成人援助論Ⅳ 成人援助論Ⅴ 老年援助論Ⅰ 小児援助論Ⅰ
	12		心臓の収縮		
	13		末梢循環系の構造:血管の構造		
	14	循環	肺循環の血管	講義	専門分野Ⅰ 看護学概論
15	体循環の動脈				
16	体循環の静脈				
17	血液の循環の調節:血圧	血液の循環	講義	専門分野Ⅱ 成人援助論Ⅲ 成人援助論Ⅳ 成人援助論Ⅴ 老年援助論Ⅰ 小児援助論Ⅰ	
18		血圧・血流量の調節			
19		微小循環			
20	体液の調節と尿の生成	循環器系の病態生理	講義	統合分野	
21		リンパとリンパ管			
22		体液とホメオスタシス			
23	体液の調節と尿の生成	腎臓:腎臓の構造と機能	講義	統合分野	
24		子宮体の構造と機能			
25		尿細管の構造と機能			
26	体液の調節と尿の生成	傍糸球体装置	講義	統合分野	
27		クリアランスと糸球体ろ過量			
28		腎臓から分泌される生理活性物質			
29	体液の調節と尿の生成	排尿路	講義	統合分野	
30		排尿路の構造			
31		尿の貯留と排尿			
32	体液の調節と尿の生成	体液の調節	講義	統合分野	
33		水の出納			
34		脱水			
35	体液の調節と尿の生成	電解質の異常	講義	統合分野	
36		酸塩基平衡			
37	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院				

教育内容	専門基礎分野 人体の構造と機能	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	解剖生理学Ⅳ	単位 1単位	人体で営まれている生命現象のうち、生命を維持する機能(情報の受容と処理・栄養の消化と吸収)について理解し、人体を保護して種を保存する機能について理解する		
担当講師	赤木 優也 医学研究科	時間数 30時間			
教育目標	2	人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う			
	3	人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う			
	5	社会の変化の方向性を理解し、看護専門職として自己啓発に励み、生涯にわたり看護を探究し続ける姿勢を持つための基礎的能力を養う			
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	情報の受容と処理	神経系の構造と機能	講義	基礎分野 人間工学
	2		脊髄と脳	講義	
	3		脊髄神経と脳神経	講義	
	4		脳の高次機能	講義	
	5		中枢神経系の障がい	講義	
	6		運動機能と下行伝導路 感覚機能と上行伝導路 眼の構造と視覚 耳の構造と聴覚・平衡覚 味覚と嗅覚 痛み(疼痛)	講義	専門基礎分野 解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ 解剖生理学Ⅲ 看護形態機能学 病態と治療Ⅰ 病態と治療Ⅱ 病態と治療Ⅲ 病態と治療Ⅳ 病態と治療Ⅴ
	7	栄養の消化吸収	口・咽頭・食道の構造と機能	講義	専門分野Ⅰ 看護学概論
	8		腹部消化管の構造と機能 胃の構造と機能	講義	
	9		小腸の構造と機能 栄養素の消化と吸収 大腸の構造	講義	
	10		膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能	講義	
	11	身体機能の防御と適応	皮膚の構造と機能 生体の防御機構 非特異的防御機構 特異的防御機構 生体防御の関連臓器	講義	専門分野Ⅱ 成人援助論Ⅲ 成人援助論Ⅳ 成人援助論Ⅴ 老年援助論Ⅰ 小児援助論Ⅰ
	12		代謝と運動 体温とその調節	講義	統合分野
	13		生殖・発生と老化のしくみ	講義	
	14	生殖・発生と老化のしくみ	男性生殖器の構造と機能 女性生殖器と性周期 受精と胎児の発生 成長と老化	講義	
15	終講試験		筆記試験		
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院				

教育内容	専門基礎分野 人体の構造と機能	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	看護形態機能学	単位 1単位	日常生活行動は人体の様々な器官・組織の働きにより作り出される。心と身体をもつ人間を丸ごと捉え、人体の構造と機能を理解し、看護学および看護援助技術へつなげる		
担当講師	長野 安莉紗 看護師臨床経験:5年以上 教育経験:3年以上	時間数 30時間			
教育目標	2 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う				
	3 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う				
	4 保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	動く	姿勢 体位と構え ・赤ちゃんが歩くまで 立位の保持 ・日常生活での基本的動き 神経から筋への指令と筋の収縮 反射・随意運動 骨格・骨格筋・関節	講義	基礎分野 人間工学
	2				専門基礎分野
	3	話す・聞く	声を出す 聞く 言葉	講義	解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ 解剖生理学Ⅲ 解剖生理学Ⅳ 病態と治療Ⅰ
	4	息をする	息を吸う・息を吐く 呼吸運動の神経支配 呼吸運動 ・肺気量 ガス交換 外呼吸と内呼吸 血液によるガスの運搬	講義	病態と治療Ⅱ 病態と治療Ⅲ 病態と治療Ⅳ 病態と治療Ⅴ
	5				専門分野Ⅰ
	6	恒常性維持のための物質の流通	流通の媒体(血液) 流通路 流通の原動力 神経性調節 液性調節 ストレスと恒常性維持	講義	看護学概論 看護援助技術Ⅰ 看護援助技術Ⅱ 看護援助技術Ⅲ 看護援助技術Ⅳ 看護援助技術Ⅴ
	7				専門分野Ⅱ
	8	眠る	人はなぜ眠くなるのか からだのメカニズム 眠り 睡眠の主観的評価	講義	成人援助論Ⅲ 成人援助論Ⅳ 成人援助論Ⅴ
	9	食べる	食欲 食行動	講義	老年援助論Ⅰ 小児援助論Ⅰ 母性援助論Ⅰ
	10		咀嚼して味わう 飲み込む(嚥下) 消化と吸収		
	11	お風呂に入る	垢を落とす 温まる 皮膚と付属物 皮膚と粘膜	講義	統合分野
	12	トイレに行く	排尿 排便	講義	
	13	子どもを産む	遺伝子組み換え 性交と受精 赤ちゃん 性殖を支えるホルモン 出産	講義	
	14				
15	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験その他(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院 看護形態機能学 日本看護協会出版会				

教育内容	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	病態生理学総論	単位 1単位	疾病の成り立ちは、臓器によらず共通するものがあり、疾病・治療の原因と人体の反応およびその分類と特徴を理解する。また、健康障害を日常生活と関連させて捉える基礎的知識を養う		
担当講師	伊倉 義弘 医師臨床経験:10年以上	時間数 15時間			
教育目標	2 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う				
	3 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	疾病の成り立ちと病因	病理学とは 看護と病理学 先天異常と遺伝子異常 先天異常とは 染色体異常による疾患	講義	基礎分野 専門基礎分野 解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ 解剖生理学Ⅲ 解剖生理学Ⅳ 看護形態機能学 病態と治療Ⅰ 病態と治療Ⅱ 病態と治療Ⅲ 病態と治療Ⅳ 病態と治療Ⅴ
	2	代謝異常①	代謝障害	講義	看護形態機能学 病態と治療Ⅰ 病態と治療Ⅱ 病態と治療Ⅲ 病態と治療Ⅳ 病態と治療Ⅴ
	3	代謝異常②	細胞の損傷と適応 脂質・たんぱく・糖質代謝異常と疾患	講義	
	4	循環障害	循環障害 うつ血・ショック・虚血	講義	
	5	腫瘍	腫瘍 腫瘍の定義と分類 発生のメカニズム	講義	専門分野Ⅰ 看護学概論
	6	炎症とアレルギー	炎症 炎症の原因・経過・創傷治癒 免疫とアレルギー 自己免疫疾患、膠原病	講義	専門分野Ⅱ 成人援助論Ⅰ 成人援助論Ⅱ 成人援助論Ⅲ 成人援助論Ⅳ 成人援助論Ⅴ 老年援助論Ⅰ 小児援助論Ⅰ 母性援助論Ⅰ
	7	感染症	感染症 宿主の防御機構	講義	統合分野
	8	終講試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[1] 病理学 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[2] 病態生理学 医学書院				

教育内容	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	臨床微生物学	単位 1単位	微生物が人体に及ぼす影響を知り、感染症の原因である病原微生物について、体系的な知識を深める		
担当講師	岡本 豊 臨床検査技師経験:10年以上	時間数 30時間			
教育目標	3 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	微生物学の基礎	微生物と微生物学	講義	基礎分野
	2		細菌の性質	講義	専門基礎分野
	3	感染とその防御	真菌の性質	講義	看護形態機能学
	4		原虫の性質		病態と治療Ⅰ
	5		ウイルスの性質		病態と治療Ⅱ
	6		感染と感染症		病態と治療Ⅲ
	7		感染に対する生体防御機構		病態と治療Ⅳ
	8		感染源・感染経路からみた感染症		病態と治療Ⅴ
	9		滅菌と消毒		治療論Ⅰ
	10	主な病原微生物	感染症の検査と診断	講義	治療論Ⅱ
	11		感染症の治療	講義	治療論Ⅲ
	12		感染症の現状と対策	講義	専門分野Ⅰ
	13		病原細菌と細菌感染症	講義	看護学概論
	14		グラム陽性球菌	講義	看護援助技術Ⅳ
	15		グラム陰性球菌	講義	専門分野Ⅱ
16	グラム陰性好気性桿菌			成人援助論Ⅰ	
17	グラム陰性通性桿菌			成人援助論Ⅲ	
18	カンピロバクター属			成人援助論Ⅳ	
19	グラム陽性桿菌			成人援助論Ⅴ	
20	抗酸菌と放線菌		老年援助論Ⅰ		
21	嫌気性菌		小児援助論Ⅰ		
22	スピロヘータ		母性援助論Ⅰ		
23	マイコプラズマ		統合分野		
24	リケッチア目		在宅看護概論		
25	クラミジア科		医療安全		
26	11	病原真菌と真菌感染症	講義		
27		病原原虫と原虫感染症			
28	12	病原ウイルスとウイルス感染症	講義		
29	13	DNAウイルス	講義		
30	14	RNAウイルス	講義		
31		ウイルスと臨床的分類	講義		
32	15	終講試験	筆記試験		
33		終講試験の解説	問題の正誤確認とその理由		
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[4] 微生物学 医学書院				

教育内容	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	時期 1年次	科目のねらい					
授業科目	治療論 I	単位 1単位	疾病の回復を促進する治療法としての放射線療法、化学療法および手術療法について、その特徴を理解する					
担当講師	岡 隆紀 医師臨床経験:10年以上	時間数 30時間						
教育目標	2 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う							
	3 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う							
	4 保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う							
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目			
	1	臨床検査	診断法	講義	基礎分野			
	2		診断の進め方、問診、身体所見 検体検査・生体検査					
	3	麻酔法	麻酔の知識	講義	専門基礎分野 解剖生理学 I 解剖生理学 II 解剖生理学 III 解剖生理学 IV 看護形態機能学 病態と治療 I 病態と治療 II 病態と治療 III 病態と治療 IV 病態と治療 V 治療論 II 治療論 III			
	4		麻酔とは 手術室の管理 手術侵襲と生体の反応 全身麻酔、局所麻酔					
	5	手術療法	外科療法の目的と意義 外科診断法 外科手術・処置の基本 術前・術後と術後合併症の管理 外科的侵襲と生体反応 炎症と外科的感染症 生体の損傷 腫瘍の外科治療	講義	専門分野 I 看護学概論			
	6		各部の手術療法			上部消化管の手術	講義	専門分野 II 成人援助論 I 成人援助論 II 成人援助論 III 成人援助論 IV 成人援助論 V 老年援助論 I 小児援助論 I 母性援助論 I
	7					下部消化管手術		
	8					肝胆膵手術		
	9		胸部外科			胸部外科	講義	
	10	心臓血管外科						
	11	化学療法	化学療法とは 化学療法の目的と特徴	講義	統合分野			
	12	放射線療法	放射線療法とは	講義				
	13		放射線療法の目的・種類について					
	14		放射線医学 CT、単純撮影、MRI エコー、アイソトープ、IVR治療 など					
15	終講試験	筆記試験						
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする							
テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院							

教育内容	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	治療論Ⅱ	単位 1単位	栄養の意義と生体に及ぼす影響と食事療法の種類や特徴を疾病と関連づけて理解する リハビリテーションとノーマライゼーションを理解する		
担当講師	岡本 泰幸 管理栄養士経験:10年以上	時間数 15時間			
教育目標	2 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う				
	3 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う				
	4 保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	人間栄養学と看護 エネルギー代謝	人間栄養学としての取り組みと看護の役割 栄養状態の評価・判定の目的とその4つの手技について 五大栄養素の種類とはたらきについて ①炭水化物 ②脂質 ③タンパク質 ④ビタミン ⑤ミネラル ⑥水 生命活動を営むための源、エネルギーについて ①食品のエネルギー ②体内のエネルギー ③エネルギー代謝 ④エネルギー消費	講義	基礎分野 専門基礎分野 解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ 解剖生理学Ⅲ 解剖生理学Ⅳ 看護形態機能学 病態と治療Ⅰ 病態と治療Ⅱ 病態と治療Ⅲ 病態と治療Ⅳ 病態と治療Ⅴ 治療論Ⅰ 治療論Ⅲ
	2	栄養ケア・マネジメント ライフステージと栄養	栄養ケア・マネジメントの概要や評価に関する基礎的事項 人間の一生において各ライフステージでの栄養の特徴と栄養ケア・マネジメントの要点	講義	病態と治療Ⅴ 治療論Ⅰ 治療論Ⅲ
	3	栄養食事療法①	呼吸器～腎疾患	講義	専門分野Ⅰ 看護学概論
	4	栄養食事療法②	代謝疾患～高齢者	講義	
	5	栄養状態の評価・判定	栄養計算	講義	専門分野Ⅱ 成人援助論Ⅰ 成人援助論Ⅱ
	6	リハビリテーション概論①	リハビリテーションの概念	講義	成人援助論Ⅲ
	7	リハビリテーション概論②	リハビリテーションの定義 リハビリテーションの対象 リハビリテーションとノーマライゼーションを必要とする人々 障害者の動向 ノーマライゼーション ICFの基本的な考え方 ADL、IADLなど 経過別リハビリテーション 急性期・回復期・慢性期におけるリハビリテーションの特徴		成人援助論Ⅳ 成人援助論Ⅴ 老年援助論Ⅰ 小児援助論Ⅰ 母性援助論Ⅰ
	8	終講試験	筆記試験		統合分野
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[3] 栄養学 医学書院 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 医学書院				

教育内容	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	治療論Ⅲ	単位 1単位	薬理学の基礎知識をふまえて、疾病に対する薬物の特徴とその作用機序及び人体に及ぼす影響および治療効果について理解する		
担当講師	西川 直樹 管理薬剤師経験:10年以上	時間数 30時間			
教育目標	2 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う				
	3 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う				
	4 保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	薬理学を学ぶにあたって	薬物による病気の治療	講義	基礎分野
	2	薬理学の基礎知識	薬理学とは何か 薬力学・薬物動態学・相互作用 薬効因子・有益性と危険性・薬と法律		専門基礎分野
	3	循環器系に作用する薬物	降圧薬・狭心症治療薬・心不全治療薬 利尿薬・脂質異常症治療薬 血液凝固系・専用系に作用する薬物 血液に作用する薬物	講義	解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ 解剖生理学Ⅲ 解剖生理学Ⅳ 看護形態機能学
	3	呼吸器・消化器・生殖器系に	呼吸器系に作用する薬物	講義	病態と治療Ⅰ
	4	作用する薬物	消化器系に作用する薬物 生殖器・泌尿器系に作用する薬物		病態と治療Ⅱ 病態と治療Ⅲ
	5	物質代謝に作用する薬物	ホルモンとホルモン拮抗薬 治療薬としてのビタミン	講義	病態と治療Ⅳ 病態と治療Ⅴ
	6	皮膚科用薬・眼科用薬	皮膚に使用する薬物 眼科用薬	講義	治療論Ⅰ 治療論Ⅱ
	7	抗アレルギー薬・抗炎症薬	抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬 炎症と抗炎症薬 関節リウマチ治療薬・痛風・高尿酸血症治療薬	講義	専門分野Ⅰ 看護学概論 看護援助技術Ⅳ 看護援助技術Ⅴ
	8	末梢での神経活動に作用する薬物	自律神経系作用薬 交感神経作用薬 副交感神経作用薬 筋弛緩薬・局所麻酔薬	講義	専門分野Ⅱ
	9	中枢神経系に作用する薬物	全身麻酔薬・催眠薬・抗不安薬 抗精神病薬・抗うつ薬・気分安定薬 パーキンソン症候群治療薬・抗てんかん薬 麻薬性鎮痛薬・片頭痛治療薬	講義	成人援助論Ⅰ 成人援助論Ⅱ 成人援助論Ⅲ 成人援助論Ⅳ 成人援助論Ⅴ
	10	抗感染症薬	感染症薬に関する基礎事項 抗菌薬・抗真菌薬・抗ウイルス薬・抗寄生虫薬 感染症の治療における問題点	講義	老年援助論Ⅰ 小児援助論Ⅰ 母性援助論Ⅰ 精神援助論Ⅰ 精神援助論Ⅱ
	11	抗がん薬	がん治療に関する基礎事項 抗がん薬各論	講義	
	12	免疫治療薬	免疫系の基礎知識 免疫抑制剤 免疫増強薬・予防接種	講義	統合分野
	13	救急の際に使用される薬物	救急に用いられる薬物	講義	在宅看護概論 在宅援助論Ⅰ 在宅援助論Ⅱ 医療安全
14	輸液製剤・輸血剤	輸液製剤 輸血剤			
	漢方薬	漢方薬各論			
	消毒薬	消毒薬とは・種類と作用・適用			
15	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[3] 薬理学 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 医学書院				

教育内容	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	病態と治療 I	単位 1単位	呼吸器疾患の病態生理、検査、治療法、予後を理解する 循環器疾患の病態生理、検査、治療法、予後を理解する		
担当講師	中村 美保 医師臨床経験:10年以上 湯口 賢 医師臨床経験:10年以上	時間数 30時間			
教育目標	2 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う				
	3 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う				
	4 保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	呼吸器系の病態と治療	呼吸器の解剖と生理 I	講義	基礎分野
	2		呼吸器の解剖と生理 II	講義	専門基礎分野
	3		呼吸器の検査	講義	解剖生理学 I 解剖生理学 II
	4		呼吸器の治療 気道確保 在宅酸素	講義	解剖生理学 III 解剖生理学 IV 看護形態機能学
	5		肺 感染症	講義	病態と治療 II 病態と治療 III 病態と治療 IV 病態と治療 V
	6		びまん性肺疾患、喘息、COPD	講義	治療論 I 治療論 II
	7		肺がん、SAS、結核など	講義	治療論 III
	1	循環器系の病態と治療	心臓の解剖と生理	講義	専門分野 I 看護学概論
	2		虚血	講義	専門分野 II
	3		高血圧	講義	成人援助論 I 成人援助論 II
	4		弁膜症と心筋症	講義	成人援助論 III 成人援助論 IV 成人援助論 V
	5		不整脈	講義	老年援助論 I 小児援助論 I
	6		心不全	講義	母性援助論 I
	7		その他	講義	統合分野
15	終講試験	筆記試験			
評価方法	終講試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統別看護学講座 専門分野 II 成人看護学[2] 呼吸器 医学書院 系統別看護学講座 専門分野 II 成人看護学[3] 循環器 医学書院 系統別看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学 医学書院 系統別看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院				

教育内容	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	病態と治療Ⅱ	単位 1単位	消化器疾患の病態生理、検査、治療法、予後を理解する 内分泌系、代謝系、歯・口腔疾患の病態生理、検査、治療法、予後を理解する		
担当講師	富永 洋一 医師臨床経験:10年以上	時間数 30時間			
教育目標	2 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う				
	3 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う				
	4 保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	消化器系の病態と治療	上部消化管①	講義	基礎分野
	2		上部消化管②		専門基礎分野
	3		下部消化管①		解剖生理学Ⅰ
	4		下部消化管②		解剖生理学Ⅱ
	5		肝炎		解剖生理学Ⅲ
	6		肝硬変と肝がん		解剖生理学Ⅳ
	7		胆膵疾患		看護形態機能学
	1	代謝疾患の病態と治療	糖尿病 診断～治療まで	講義	病態と治療Ⅰ
	2		糖尿病 急性、慢性合併症		病態と治療Ⅲ
	3		脂質異常症、肥満、高尿酸血症		病態と治療Ⅳ
	1	内分泌疾患の病態と治療	視床下部、下垂体前葉、後葉 甲状腺疾患	講義	病態と治療Ⅴ
	2		甲状腺腫瘍 副甲状腺、副腎他		治療論Ⅰ
	1	口腔疾患の病態と治療	歯・口腔(2)	講義	治療論Ⅱ
	2		歯・口腔(2)		治療論Ⅲ
15	終講試験	筆記試験		専門分野Ⅰ 看護学概論	
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院 系統看護学講座 専門基礎 疾病の成り立ちと回復の促進2 病態生理学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5] 消化器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6] 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[17] 歯・口腔 医学書院				

教育内容	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	病態と治療Ⅲ	単位 1単位	運動器疾患の病態生理、検査、治療、予後を理解する 脳神経疾患の病態生理、検査、治療、予後を理解する 感覚器(眼・耳鼻咽喉)疾患の病態生理、検査、治療、予後を理解する		
担当講師	松下 達生 医師臨床経験:10年以上	時間数 30時間			
教育目標	2 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う				
	3 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う				
	4 保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1 5 4	運動器系の病態と治療	運動器疾患の病態生理 骨折と脱臼 神経と筋肉の機能 脊椎疾患	講義	基礎分野 専門基礎分野 解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ 解剖生理学Ⅲ 解剖生理学Ⅳ 看護形態機能学 病態と治療Ⅰ 病態と治療Ⅱ 病態と治療Ⅳ 病態と治療Ⅴ
	1 5 12	脳及び神経内科の病態と治療	脳血管障害の症状・検査・治療 頭部外傷・脳腫瘍症状・検査・治療 他の脳外科疾患症状・検査・治療 神経内科疾患症状・検査・治療	講義	看護形態機能学 病態と治療Ⅰ 病態と治療Ⅱ 病態と治療Ⅳ 病態と治療Ⅴ
	1 2	眼科疾患の病態と治療	眼科疾患の症状、治療、検査 水晶体疾患の症状・検査・治療・処置 緑内障 眼底疾患の症状・検査・治療・処置 眼瞼・結膜・角膜の疾患の症状・治療	講義	治療論Ⅰ 治療論Ⅱ 治療論Ⅲ
	1 2	耳鼻咽喉疾患の病態と治療	耳鼻咽喉疾患の症状、治療、検査 外耳・中耳・内耳疾患 副鼻腔炎 アレルギー疾患 扁桃腺炎	講義	専門分野Ⅰ 看護学概論 専門分野Ⅱ 成人援助論Ⅰ 成人援助論Ⅱ 成人援助論Ⅲ 成人援助論Ⅳ 成人援助論Ⅴ 老年援助論Ⅰ 小児援助論Ⅰ 母性援助論Ⅰ
	15	終講試験	筆記試験		統合分野
	評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする			
	テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[2] 病態生理学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7] 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10] 運動器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[13] 眼 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[16] 耳鼻咽喉 医学書院			

教育内容	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	病態と治療Ⅳ	単位 1単位	腎・泌尿器疾患の病態生理、検査、治療、予後を理解する 女性生殖器疾患の病態生理、検査、治療、予後を理解する 感覚器(皮膚)疾患の病態生理、検査、治療、予後を理解する		
担当講師	辻本 吉広 医師臨床経験:10年以上	時間数 30時間			
教育目標	2 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う				
	3 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う				
	4 保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	腎疾患の病態と治療	腎臓の構造と機能 症状とその病態生理	講義	基礎分野 専門基礎分野 解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ 解剖生理学Ⅲ 解剖生理学Ⅳ 看護形態機能学 病態と治療Ⅰ 病態と治療Ⅱ 病態と治療Ⅲ 病態と治療Ⅳ 治療論Ⅰ 治療論Ⅱ 治療論Ⅲ
	2		腎臓泌尿器の検査と治療		
	3		腎不全と急性腎不全、慢性腎不全		
	4		ネフローゼ症候群 糸球体腎炎		
	5		全身性疾患による腎障害 腎血管性病変		
	1	女性生殖器疾患の病態と治療	女性生殖器の疾患	講義	専門分野Ⅰ 看護学概論
	2		不妊症		
	1		子宮、卵巣の疾患	講義	専門分野Ⅱ 成人援助論Ⅰ 成人援助論Ⅱ 成人援助論Ⅲ 成人援助論Ⅳ 成人援助論Ⅴ 老年援助論Ⅰ 小児援助論Ⅰ 母性援助論Ⅰ
	1		乳房の疾患	講義	
	1	泌尿器疾患の病態と治療	尿路と泌尿器科疾患	講義	
	2		泌尿器科悪性疾患 腎移植 性病		
	1	皮膚疾患の病態と治療	皮膚の構造と機能 発疹学(Ⅰ)	講義	統合分野
	2		発疹学(Ⅱ)検査と治療・処置		
	3		皮膚疾患の理解		
15	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[2] 病態生理学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8] 腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9] 女性生殖器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[12] 皮膚 医学書院				

教育内容	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	病態と治療V	単位 1単位	血液・造血器疾患の病態生理、検査、治療、予後を理解する 自己免疫疾患および感染症の病態生理、検査、治療、予後を理解する		
担当講師	岡本 伸彦 医師臨床経験:10年以上	時間数 30時間			
教育目標	2 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う				
	3 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う				
	4 保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	血液造血器疾患の病態と治療	検査・診断と症候・病態生理 疾患と治療の理解	講義	基礎分野
	5		赤血球の異常		専門基礎分野
	6		白血球の異常		解剖生理学 I
			造血器腫瘍		解剖生理学 II
			出血性疾患		解剖生理学 III
					解剖生理学 IV
	1	感染症と治療	感染①総論	講義	看護形態機能学
	2		感染②治療、予防		病態と治療 I
	3		感染③耐性菌、感染対策		病態と治療 II
	4		感染④振興/再興感染症		病態と治療 III
	1	アレルギー性疾患と治療	アレルギー総論	講義	病態と治療 IV
	2		アレルギー各論		治療論 I
	3	膠原病と治療	膠原病総論		治療論 II
	4		膠原病各論		治療論 III
15	終講試験	筆記試験		専門分野 I 看護学概論	
				専門分野 II 成人援助論 I 成人援助論 II 成人援助論 III 成人援助論 IV 成人援助論 V 老年援助論 I 小児援助論 I 母性援助論 I	
				統合分野	
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[2] 病態生理学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学[4] 血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学[11] アレルギー・膠原病・感染症 医学書院				

教育内容	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	保健医療論	単位 1単位	医療の発達、医療体系と機能、今日の医療の課題を理解する		
担当講師	清水 富男 医師臨床経験:10年以上	時間数 15時間			
教育目標	1	生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観を尊重し、倫理的判断に基づいたヒューマンケアを実践するための豊かな人間性を養う			
	4	保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を实践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う			
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	生きることと死ぬこと	生命を尊ぶ心 健やかに生きる 老いてこそ人生 穏やかに死ぬこと 終末期を考える	講義	基礎分野 専門基礎分野 公衆衛生学 社会福祉Ⅰ 社会福祉Ⅱ 関係法規Ⅰ 関係法規Ⅱ
	2	医学と医療	医学の歴史 臨床疫学とEBM	講義	関係法規Ⅰ 関係法規Ⅱ
	3	保健・医療・介護	保健・医療・介護を取り巻く社会環境の変化	講義	専門分野Ⅰ 看護学概論
	4	切れ目ないサポートの実現	社会保障制度 公衆衛生と保健 我が国の医療システム 救急医療・集中治療 がん治療 周産期医療 放射線診断 チーム医療 リハビリテーション 介護		専門分野Ⅱ 成人看護学概論 老年看護学概論 小児看護学概論 母性看護学概論
	5	医療と社会	医の倫理	講義	統合分野 在宅看護概論 看護管理・看護倫理
	6		医療安全 医薬品 最先端医療 医療情報		
	7	医療経済学と医療政策	経済学を用いて医療を読み解く 転換を迫られる医療政策	講義	
	8	終講試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[1] 医療概論 医学書院				

教育内容	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度	時期 2年次	科目のねらい		
授業科目	公衆衛生学	単位 1単位	人間の健康を保持増進するための社会や環境と健康との関わりについて理解する 公衆衛生の現状を知り、今日的保健対策の理解に努める		
担当講師	富田 久子 保健師経験:10年以上 教育経験7年	時間数 30時間	また、急速な高齢化社会に伴う医療、保健、福祉の問題、新興国の急速な経済発展に伴う環境問題(温暖化・汚染etc)と健康への影響および健康増進のための対策、地域保健など幅広く学ぶ		
教育目標	3 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う				
	4 保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	公衆衛生学序論	公衆衛生とはなにか 世界の公衆衛生の歴史 日本における公衆衛生 はじまりと発展 新たな公衆衛生の理念	講義	基礎分野 専門基礎分野 公衆衛生学
	2	公衆衛生の活動対象	自分の生活と健康に関係する社会集団 看護職の公的責任と活動対象 社会集団をとらえる視座 社会集団のなかにある特定集団	講義	社会福祉Ⅰ 社会福祉Ⅱ 関係法規Ⅰ 関係法規Ⅱ
	3	公衆衛生のしくみ	政策展開 国と地方自治体の役割 専門職のはたらき 多職種との協働 住民との協働	講義	専門分野Ⅰ 看護学概論
	4	集団の健康をとらえるための手法 疫学・保健統計	集団としての人々の健康をまもる 公衆衛生の場での疫学 集団をとらえる 原因を分析する 対策を計画・実施する エビデンスを使う、つくる	講義	専門分野Ⅱ 成人看護学概論 老年看護学概論 小児看護学概論 母性看護学概論
	5	環境と健康	環境と健康 地球規模の環境と健康 身の回りの環境と健康 日本の環境行政	講義	統合分野 在宅看護概論 看護管理・看護倫理
	6	感染症とその予防対策	感染症とその予防の基礎知識 日本の感染症予防対策 院内感染とその予防 公衆衛生上の重要な感染症とその対策	講義	
	7	国際保健	経済格差と健康格差 ・健康格差の解消のために 国際保健の担い手・共通目標 国際保健の共通目標 国際保健と日本	講義	
	8	地域における公衆衛生の実践	公衆衛生看護とは 母子保健	講義	
	9		成人保健	講義	
	10		高齢者保健	講義	
	11		精神保健	講義	
	12	学校と保健	歯科保健 障がい者保健・難病保健 学校における健康とは 学校保健の展開 特別な支援を必要とする子どもたち	講義	
	13	職場と健康	職場における健康 職場における健康をまもるしくみ 産業保健活動の展開 産業保健における今後の課題と新たな動き	講義	
	14	健康危機管理・災害保健	健康危機管理 災害保健		
15	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度2 公衆衛生 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会				

教育内容	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度	時期 2年次	科目のねらい		
授業科目	社会福祉 I	単位 1単位	社会福祉の意義や歴史、制度についての基礎を理解する。		
担当講師	馬込 武志 教育経験:10年以上	時間数 15時間	現代の貧困問題や人権問題と自分たちが「生きつづける」現代社会の動向を幅広く考える視点を身につける。		
教育目標	3 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う				
	4 保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	社会福祉の理念	社会保障制度の概要及び現代の課題 社会福祉の意味、定義 社会福祉の理念 社会福祉の構造	講義	基礎分野 専門基礎分野 公衆衛生学 公衆衛生学 社会福祉II 関係法規 I 関係法規 II
	2	社会福祉の歴史	社会福祉の対象についての考察(1) 貧困問題	講義	関係法規 I 関係法規 II
	3	日本における社会福祉の発達	社会福祉の対象についての考察(2) 歴史から考える	講義	専門分野 I 看護学概論
	4	社会福祉の概要と動向	社会福祉の法と制度 生活保護制度、介護保険制度、所得保障	講義	専門分野 II 成人看護学概論 老年看護学概論 小児看護学概論 母性看護学概論
	5	社会福祉の分野とサービス	社会福祉の対象についての考察(3) 障がい児者福祉の歩みから考える	講義	統合分野 在宅看護概論 看護管理・看護倫理
	6		社会福祉の対象についての考察(4) 子どもと家族への支援から考える	講義	
	7	社会福祉実践の共通基盤	社会福祉における相談援助 ソーシャルワークの理解 現代社会と地域問題、社会福祉 公的扶助 ノーマライゼーション 少数者と人権 地域福祉 共生社会	講義	
	8	終講試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[3] 社会保障・社会福祉 医学書院				

教育内容	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度	時期 3年次	科目のねらい		
授業科目	社会福祉Ⅱ	単位 1単位	社会福祉全体の概説を学ぶ 昨今の社会福祉のニーズをはじめ、地域福祉の導入や介護保険、障害者総合支援法等知っておくべき社会福祉の基本的知識を習得する		
担当講師	山本 永人 教育経験:10年以上	時間数 30時間			
教育目標	4 保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	我が国の社会保障制度と社会福祉	我が国における社会保障制度の体系 社会福祉サービスとの比較	講義	基礎分野
	2	我が国の社会福祉史(1)	明治期の福祉 福祉の先達たちの活躍 福祉6法の成立に向けて	講義	専門基礎分野 公衆衛生学 公衆衛生学
	3	我が国の社会福祉史(2)	生存権保障と福祉サービスの胎動 福祉サービスの拡大 社会福祉基礎構造改革後の社会福祉サービスの展開	講義	社会福祉Ⅰ 関係法規Ⅰ 関係法規Ⅱ
	4	現代社会の変化と社会保障	少子高齢化社会の統計的な変化 現代的貧困とジェンダー	講義	専門分野Ⅰ
	5	社会保険制度①医療保険(1)	医療保険が成立してきた経緯 医療保険の保険者・被保険者 職域保険と地域保険	講義	看護学概論
	6	社会保険制度②医療保険(2)	保険制度のしくみと保険給付 後期高齢者医療制度のしくみ 医療保険制度の課題と今後	講義	専門分野Ⅱ 成人看護学概論 老年看護学概論 小児看護学概論 母性看護学概論
	7	社会保険制度②年金保険	年金制度が成立した経過 賦課制度による年金保険のしくみ 年金制度の将来的な展望	講義	統合分野
	8	社会保険制度③労働保険	雇用保険制度について 労働者災害補償保険について	講義	在宅看護概論 看護管理・看護倫理
	9	社会保険制度④介護保険(1)	介護保険ができるまでの背景 介護ニーズの増大と医療モデルでの対応の限界	講義	
	10	社会保険制度④介護保険(2)	老人保健制度から介護保険制度へ 介護保険制度の保険者、被保険者 介護保険制度の給付と地域支援事業 介護保険の今日的課題	講義	
	11	公的扶助制度	公的扶助の体系 生活保護制度の原理と原則 生活保護制度の実施プロセス 社会手当	講義	
	12	社会福祉サービス① 障害者サービス(1)	ICFとノーマライゼーション 障害者の範囲とその拡大 障害者福祉サービスの変遷	講義	
	13	社会福祉サービス① 障害者サービス(2)	支援費制度と障害者自立支援法 障害者総合支援法とそのサービスの内容 障害者差別解消法の考え方	講義	
	14	社会福祉サービス② 児童家庭福祉サービス	子どもの定義 子どもの権利に関する条約と児童福祉法 児童福祉サービスの内容 児童虐待への対応	講義	
	15	終講試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[3] 社会保障・社会福祉 医学書院				

教育内容	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度	時期 1年次	科目のねらい		
授業科目	関係法規Ⅰ	単位 1単位	保健医療福祉に関する関係法規の基礎について理解する(法の内容、法令、医事法規概要)厚生行政のしくみなど生活者に必要な法令の基礎を理解する		
担当講師	松田 孝緒 病院事務職:10年以上 薬剤師経験:10年以上	時間数 15時間			
教育目標	3 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う				
	4 保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う				
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	法の内容	法の内容 衛生法 厚生行政のしくみ	講義	基礎分野 専門基礎分野 公衆衛生学 公衆衛生学 社会福祉Ⅰ 社会福祉Ⅱ 関係法規Ⅱ
	2	保健衛生法	共通保健法	講義	専門分野Ⅰ 看護学概論
	3		地域保健法 健康増進法		
	4		分野別保健法 感染症に関する法 食品に関する法		
	5	薬務法	医事一般に関する法律	講義	専門分野Ⅱ 成人看護学概論 老年看護学概論 小児看護学概論 母性看護学概論
	6		医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律		
	7	環境法	環境保全の基本法 公害防止の法 自然保護法	講義	統合分野 在宅看護概論 看護管理・看護倫理
	8	終講試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[4] 看護関係法令 医学書院				

教育内容	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度	時期 3年次	科目のねらい		
授業科目	関係法規Ⅱ	単位 1単位	看護職に関わる法令を理解する意義について学ぶとともに、法律の内容を理解する		
担当講師	木村 幸子 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上	時間数 15時間			
教育目標	4	保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う			
	5	社会の変化の方向性を理解し、看護専門職として自己啓発に励み、生涯にわたり看護を探究し続ける姿勢を持つための基礎的能力を養う			
学習内容	回	項目	内容	教授法	関連科目
	1	法を理解する意義	看護職に関わる法令を理解する意義	講義・演習	基礎分野
	2	医事法 看護関係法	保健師助産師看護師法 目的、定義、免許、業務、試験 看護師等の人材確保の促進に関する法律	講義・演習	専門基礎分野 公衆衛生学 公衆衛生学 社会福祉Ⅰ 社会福祉Ⅱ 関係法規Ⅰ
	3		医行為と診療の補助 特定行為 介護施設の喀痰吸引		専門分野Ⅰ 看護学概論
	4	国民の医療に関する法	医師法 医療法 医療関係資格法 医療を支える法	講義・演習	専門分野Ⅱ 成人看護学概論 老年看護学概論 小児看護学概論 母性看護学概論
	5	医療事故と法	医療過誤	講義	
	6		医療と刑事責任・民事責任		
	7	労働法と社会基盤整備	働く者の健康を守る医療従事者として、労働条件および職場の安全について定めた法律 労働基準法 労働安全衛生法	講義・演習	統合分野 在宅看護概論 看護管理・看護倫理
	8	終講試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[4] 看護関係法令 医学書院				

